

**2020 年度教育実習・臨床実習実施状況調査結果  
報告書**

2020 年 11 月 1 日

日本養護教諭養成大学協議会

## I.はじめに

新型コロナウイルス感染症拡大により、今年度は従来の授業や実習が実施できず、養護教諭養成教育そのものの質保証が危惧されている。そこで、本会では、各養成大学の教育実習・臨床実習実施（実施予定含む）の現在の状況ならびに実習中止や短縮のための代替措置や教育の質保証のための取り組みの実態を明らかにし、各大学の今後の対応の参考資料となることを目的として調査を実施した。

## II.方法

日本養護教諭養成大学協議会会員校 137 校に対して Google フォームにて調査を実施し、85 校より回答を得た（回収率 62.0%）。調査項目は、養護実習、教育実習、臨床実習の実習期間ならびに実施状況、新型コロナウイルス感染症対策についてとした。調査期間は、2020 年 9 月 25 日～10 月 15 日であった。

なお調査にあたっては、画面上に調査の趣旨を記載したうえで養成機関が特定されることのないよう無記名で行い、回答をもって同意したこととみなした。

## III.結果

### 1.属性

回答があった会員校の内訳は、表 1 のとおりである。看護系大学からの回答が 5 割以上あり、最も多かった。また、表 2 のとおりに、ほとんどの会員校で養護教諭 1 種免許が取得でき、中・高等学校教員免許状 1 種免許状（保健）が取得できる会員校が約 3 割であった。

表 1 回答があった会員校の養成機関（n = 85）

教育系	23 (27.1%)
看護系	47 (55.3%)
学際系	21 (24.7%)
短期大学	1 (1.2%)
特別別科	2 (2.4%)

表 2 取得できる免許（n = 83）（複数回答）

養護教諭 1 種免許状	82 (98.8%)
養護教諭 2 種免許状	8 (9.6%)
中・高等学校教員免許状 1 種免許状（保健）	24 (28.9%)
中・高等学校教員免許状 2 種免許状（保健）	3 (3.6%)

### 2.養護実習の実施状況

学年別の実習期間は、1 年次、2 年次ではほとんど実施されておらず、4 年次での 3 週間ないし 4 週間の実施が多かった（表 3-1）。今年度は、実習校の事情によって学生ごとに異なる実施状況であったと推察するが、概ね、実習時期の変更や実習時間の短縮という対応で養護実習が実施できていた（表 3-2）。また、具体的な実施内容に関する自由記述（表 3-3）か

らは、時間数的にも内容的にも不足している部分を学内演習やリモート学習により補講するといった各養成校の工夫がみられた。このように、小・中・高の学校再開に合わせて、学校現場では概ね実習生を受け入れている現状が明らかとなった。

表 3-1 養護実習の学年別実習期間 (母数が不明のため度数で示す)

	実施しない	1 週間	2 週間	3 週間	4 週間
1 年次	40	1	0	0	0
2 年次	36	5	0	1	0
3 年次	25	1	3	9	11
4 年次	8	1	3	33	31

表 3-2 2020 年度養護実習の実施状況 (n = 84) (複数回答)

計画通りに実施	29 (34.5%)
時期を変更して計画通りに実施	44 (52.4%)
一部実施し、一部代替プログラム	37 (44.0%)
すべて代替プログラム	1 (1.2%)
その他	6 (7.1%)

表 3-3 養護実習の具体的な実施内容、代替プログラム、質保証のための取り組み

- ・経験できなかった実習項目の模擬実践
- ・実習校の健康課題をもとに、保健教育の計画・実施・評価の演習
- ・現職養護教諭による遠隔授業やカンファレンス
- ・養護実習に関する実践力を高める内容及び1~3年までの養護学関連科目の復習
- ・健康・安全に関する重要な行事等がある日を実習日とすることで学校の保健活動の体験の場の設定
- ・グループディスカッションを取り入れた双方向のメディア授業の実施
- ・模擬授業の作成及び実施と振り返りのディスカッション、救急処置等の専門技術の演習
- ・養護教諭の職務の5領域を中心にしたプログラム
- ・学校ボランティアや学習指導等への参加
- ・連携高校保健室でのボランティアとしての参加
- ・実習を断られた場合の3週間の実習対応として、1週間の児童生徒がいない時間帯での実習の実施(養護教諭等の講話、保健室の補助業務・保健だより作成等)、及び2週間の学生の地元教育委員会を通じての実習の実施(学習支援活動への参加、養護教諭の健康診断や学級活動の支援、保健指導や保健の授業の補助、来室者対応、校長講話等)
- ・実習校より視聴覚教材を借り学内での補講もしくは配信
- ・リモートによる学内演習後に自己学習させ、口頭試問による評価の実施
- ・卒業研究の一環として4週間の養護実習を位置づけ実施
- ・教育委員会、附属学校園のオンデマンド講話
- ・模擬授業指導案作成や教材教具の作成、保健だよりの作成、演習(感染症対策、救急処置、健康診断、環境検査、健康相談など)の実施
- ・遠隔による保健指導、技術練習・チェック等の実施
- ・オンラインによる演習形式として、養護実践を中心とする学校教育全般について、具体的なケースに即して対話的に学びを深めることができる同期型授業の設計
- ・子どもの健康課題に関するシミュレーション研修、救急を含めた事例検討
- ・テーマ(救急処置、保健教育、保健指導、健康相談、健康診断等)に関連する視聴覚映像の視聴、事例を用いたグループワーク、ロールプレイング、模擬授業等(実施予定)
- ・近隣の小学校へのフィールドワークの依頼予定

### 3.教育実習の実施状況

学年別の実施期間は、4年次において3週間実施が最も多かった(表4-1)。実施状況については、養護実習同様に、時期の変更や実習時間数が短縮したが、予定通りに実施または実施予定という回答が多かった(表4-2)。短縮した分については、事前学習をオンラインで実施したり、教材研究や模擬授業等を学内演習で補講したりといった代替プログラムが実施されていた(表4-3)。

表4-1 教育実習の学年別実習期間 (母数が不明のため、度数で示す)

	実施しない	1週間	2週間	3週間	4週間
1年次	9	0	0	0	0
2年次	8	2	0	0	0
3年次	8	1	1	1	2
4年次	2	0	4	13	5

表4-2 2020年度教育実習の実施状況 (n=27) (複数回答)

計画通りに実施	8 (29.6%)
時期を変更して計画通りに実施	17 (63.0%)
一部実施し、一部代替プログラム	11 (40.7%)
すべて代替プログラム	1 (3.7%)
その他	3 (11.1%)

表4-3 教育実習の具体的実施内容、代替プログラム、質保証のための取り組み

- ・外部講師を招いての指導案作成及び模擬授業等の学内演習の実施
- ・近隣小学校などへのボランティアとしての参加
- ・オンラインによる事前指導の実施、一部Zoomによる実習
- ・教育実習総論、教材研究・模擬授業、生徒理解、特別支援、特別研究などのテーマで、学内で授業の実施を行う
- ・養護施設実習での宿泊の中止し、日帰りに変更及び学内演習の実施
- ・実習に当たり、実習前居住地での2週間の健康観察及び行動の記録の義務づけ

### 4.臨床実習の実施状況

臨床実習は、2年次ないし3年次に2週間実施という養成校が多かった(表5-1)。実施状況としては、医学生や看護学生の受け入れも厳しい実習病院の状況により、学内演習もしくはリモート学習による代替プログラムで実施している養成校が多かった(表5-2)。視聴覚教材の活用や実習病院のスタッフによるオンライン講話などメディア授業による実習を実施するなどさまざまな工夫が行われていた(表5-3)。

表 5-1 臨床実習の実施状況 (母数が不明のため、度数で示す)

	実施しない	1 週間	2 週間	3 週間	4 週間	4 週間以上
1 年次	16	7	2	0	0	0
2 年次	9	4	17	2	1	0
3 年次	6	9	15	4	4	10
4 年次	16	1	4	3	0	4

表 5-2 (n = 58) (複数回答)

計画通りに実施	14 (24.1%)
時期を変更して計画通りに実施	3 (5.2%)
一部実施し、一部代替プログラム	34 (58.6%)
すべて代替プログラム	11 (19.0%)
その他	3 (5.2%)

表 5-3 臨床実習の具体的実施内容、代替プログラム、質保証のための取り組み

<ul style="list-style-type: none"> <li>・院内の動画, 病院の実習担当医師や看護師等スタッフや外部講師によるオンライン講義</li> <li>・施設の小児専門看護師による zoom での講義, その後学びのディスカッション</li> <li>・DVD など視聴覚教材による学内演習: 小児病棟での実習の実際, バイタルサイン測定, スタンダードプリコーション, 喘息発作で入院した小児の看護事例, 川崎病で入院した小児の看護事例, ネフローゼ症候群で入院した小児の看護事例, 急性胃腸炎で入院した小児の看護事例, 重症心身障害児等を利用した研修など</li> <li>・クリニックや関連施設の見学実習</li> <li>・人形を使った学内演習やフィールドワークによる観察実習</li> <li>・感染管理認定看護師による「感染予防対策研修」と訪問看護認定看護師の退院支援と訪問看護に関する講話をもとに, グループワークを実施し, 個人で課題を提出</li> <li>・同時双方型のメディア授業を活用したディスカッションの実施</li> <li>・ケアリングの理解 (①看護倫理の概要とケアリング, ②ケアリングの理論家と理論的根拠), 病気を持つ子どもの理解及び学校生活での留意事項の検討, 病気の子どもの心の理解及び学校生活での留意事項の検討, 養護教諭としての病気に罹患している子どもへ支援 (①肥満, ②白血病, ③腎疾患, ④潰瘍性大腸炎・クローン病の子どもの養護計画の立案), 学校における医療的ケアの必要な児童生徒等への対応についての理解, 学校における感染管理, 学校における新型コロナウイルス感染症予防対策をテーマとした内容を含む代替プログラムの立案, メディア授業及びグループワークの実施</li> <li>・質保証を図るため, 「臨床実習の手引き」を活用し, 病院での実習内容をイメージさせながらの Teams でのメディア授業, グループワークの実施</li> <li>・学生がイメージできるように現場の実状を交えた講義内容の設定</li> <li>・実習後に合同カンファレンスを持ち, 学生間で経験できなかった実習内容の共有</li> <li>・実習経験者 (先輩) から報告</li> </ul>
--

## 5. 特別別科における養護実習の実施状況

特別別科では, 4 週間の実習であり, 時期の変更や代替プログラム等で実施していることがわかった (表 6-1, 6-2) . 表は, 回答が少ないため, 度数で示した.

表 6-1 特別別科における養護実習の実習期間（n=3）

実施しない	0
1週間	0
2週間	0
3週間	0
4週間	3
4週間以上	0

表 6-2 特別別科における養護実習の実施状況（n=3）

計画通りに実施	1
時期を変更して計画通りに実施	1
一部実施し、一部代替プログラム	2
すべて代替プログラム	0
その他	1

表 6-3 特別別科における養護実習の具体的実施内容、代替プログラム、質保証のための取り組み

- ・実習時間数の短縮とその他の後期における授業の履修に関する配慮
- ・学内演習，附属学校園養護教諭講話・指導

#### 6.新型コロナウイルス感染症予防対策について大学から実習先に要望したこと

新型コロナウイルス感染症予防対策については，実習側と大学側との方針の共通認識を図りながら，状況に応じて実習内容や実習方法，実習期間，巡回指導のあり方等を検討し，調整を図っていたことが見出された。

- ・感染拡大について互いに配慮して行うこと，柔軟に対応していくことの共通認識
- ・大学で決めた感染症対策の励行
- ・実習校への事前訪問は行わず，遠隔や電話による事前指導への変更
- ・児童生徒，職員，学生に感染者が出た場合の実習の一旦中止にすること
- ・巡回指導を中止し，電話でのあいさつへの切り替え
- ・県外の実習校に対しての状況を説明した上での訪問の中止
- ・新型コロナウイルス感染症対策についての確認，大学の方針とのすりあわせ
- ・学生は健康観察記録(検温)と行動記録を実習期間中記録し，実習日ごとに管理職及び指導担当養護教諭に提出するので，確認の上での活動開始の指示  
提出した記録等は，学生の個人情報が含まれる内容であるため，取扱に関して十分留意することについて
- ・大学からは指導した対策（文科文書に基づく）についての説明文の添付
- ・基本的に実習先からの感染症対応や要望に準じる形での実施
- ・実習において子どもと飲食を共にしないこと
- ・内科的処置は見学とすること
- ・児童生徒と偶発的で濃厚接触になる活動については見学実習にさせていただくこと
- ・環境衛生に関する活動については，大学から PPE や手指衛生，バイタル機器に関する物品を大学から持参し実施
- ・更衣室の変更
- ・学生の体調不良や 14 日間の移動制限が守れない場合の日程の変更依頼

#### IV.まとめ

今年度の養護実習，教育実習，臨床実習ならびに特別別科における養護実習についてその実施状況について調査した結果，学校現場では時期の変更や期間の短縮といった措置のもとで養護実習や教育実習を実施したり，予定したりしていた。また，臨床実習も病院での実習が難しい中で，学内演習に切り替え，実習病院のスタッフの協力を得たり，視聴覚教材を活用したりしながらさまざまな工夫のもと，教育の質保証のために多様な取り組みがされていた。このような柔軟な対応がとれたことは，実習校や実習施設が，養成教育に対して理解を示していることや，日ごろの連携によるものと推測される。

また，どの養成校も実習校と学生の安全の確保を考慮しながら，いかに学習目標を達成しうる実習とするか，その内容や方法を検討していた。

本結果から，養成教育はできる限りの工夫や柔軟な対応を行っていたことのみならず，新型コロナウイルス感染症対策により，新たな学習方法の探求ができたこと，教員にとっても学生にとっても今後活かせる大きな学びと経験知になったことが示唆された。

(文責 池添志乃、鎌塚優子、三森寧子「教育実習・臨床実習実施状況調査」担当)

2020年11月1日

日本養護教諭養成大学協議会 役員  
会 長 遠藤伸子 (女子栄養大学)  
副会長 池添志乃 (高知県立大学)  
竹鼻ゆかり (東京学芸大学)  
理 事 大川尚子 (京都女子大学)  
鎌塚優子 (静岡大学)  
亀崎路子 (杏林大学)  
下村淳子 (愛知学院大学)  
鈴木裕子 (国土館大学)  
松枝睦美 (岡山大学)  
三森寧子 (千葉大学)